

ミズタガラシ *Cardamine lyrata* Bunge

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 11。本地域を特徴づける低湿地性植物である。

【形態】

多年生草本。茎ははじめ直立し、高さ 30~60cm になるが、花後には倒れる。茎の基部から長い匍匐枝を出し、その匍匐枝には卵円形で基部が浅い心形の葉がつく。直立茎につく葉は短い柄があり、葉身は羽状複葉で長さ 2~7cm、頂小葉は大きく広卵形、側小葉は小さく卵形で 2~7 対ある。花期は 4~6 月、茎の先端に総状花序を伸ばし、10~30 個の白色の花をつける。花弁は 4 枚で広倒卵形、長さ 5~8mm である。果実は線形で、長さ 2~3cm になる。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：13 豊川 (永田芳男 s.n., 1999-5-17)。
西：31 幸田 (小林 61123, 1998-5-10)、35 西尾北部 (芹沢 86954, 2011-5-19)。尾：41a 東海 (吉鶴靖則 815, 2016-5-7)、45 犬山 (芹沢 58330, 1991-5-6)、47 小牧 (日比野修 4451, 1998-5-20)、48 春日井 (秋山葉子 69, 1993-4-27)、49a 岩倉 (鈴木幸子 630, 1994-5-13)、50 名古屋北部 (鳥居ちよ子 2882, 2011-5-15)、53 一宮東部 (粟田郁男 247, 1993-6-13)、54 一宮西部 (芹沢 61375, 1991-5-24)、55 稲沢 (渡辺幸子 3326, 1998-4-26)、57a 津島 (芹沢 73543, 1997-5-12)、57b 愛西 (福岡義洋 6530, 2019-5-12)。

【国内の分布】

本州 (関東地方以西)、四国、九州に生育するとされているが、一般にあまりよく理解されていない植物で、東海地方以外での現状は今ひとつはっきりしない。

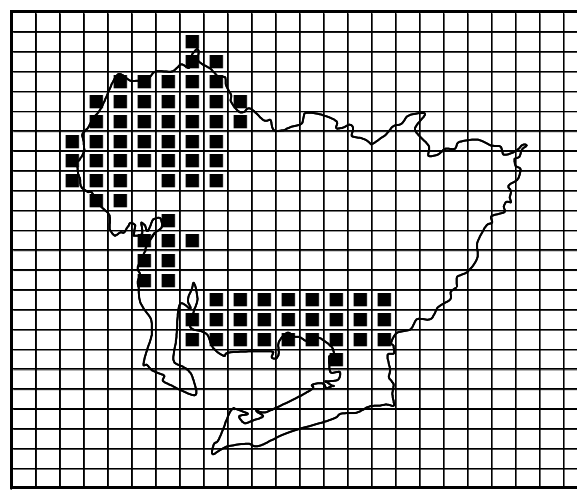
【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、モンゴル、シベリア東部などに広く分布する。

【生育地の環境／生態的特性】

河川敷などの低湿地に生育するほか、休耕田や水田わきの水路などに生育することもある。

要配慮地区図



	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地			○	
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

どこでも見られるというわけではないが、ある場所では一般によく生育している。しかし、低湿地性の植物であるため、耕地整理、宅地化、水の汚染などの影響を受けやすく、その点で将来の存続が懸念される。帰化植物であるオランダガラシの増加によって圧迫されている場所もある。

【保全上の留意点】

平野部の湿地や未整理耕地は、そこを利用している、あるいは近傍に住む人に不利益をもたらすため、行政としては今までのように消失させるよう努力してきた。しかし、ここまで少なくなってしまうと、今後は旧来の農村景観という文化財的な意味を含めて、保全を図る必要がある。名古屋北部の守山区才井戸流は流水中に本種の群落が点在しており、特に保全が必要である。

【特記事項】

「日本の野生植物」II 127 図版に本種として掲載されている写真は、タネツケバナである。写真小図鑑類に掲載されている写真も、ほとんどが誤りである。「原色日本植物図鑑」草本編 II 41 図版の図では、本種の特徴がよく示されている。

【関連文献】

保草本 II p.175, 平草本 II p.131, 平新版 4 p.56, SOS 旧版 p.55.